

パナソニックインパルスは人を大切に作る組織です。

イグエ・ケリー祥一 DL

パナソニック株式会社
エレクトリックワークス社
ライティング事業部
マーケティングセンター勤務



— Xリーグの強豪、パナソニックインパルスはどんなチームなのか。選手やスタッフが一員になってから体験した実際の姿を語る。2017年にインパルスの一員となったDリーグエ・ケリー祥一は、日本体育大学時代に野球からフットボールに転向したという異色の経歴を持っている。ひたむきな努力でチームメイトからも一目置かれるイグエは、インパルスの人を大切に作る文化が一番の魅力だという。

— イグエさんは大学の途中からフットボールを始めたとお聞きしています。

イグエ 大学1年時の終わりに野球部からフットボール部に転部をしました。野球部では三軍だったので、フットボール部のヘッドコーチが野球部のコーチに試合に出場していないメンバーでフットボールに向いている選

手はないか、という会話をした時に名前が上がったと聞いています。三軍から脱落していく選手も多いのですが、違う道を示していただけた珍しいケースでした。

— 就職活動の時、パナソニックを選んだ理由は？

イグエ 当初はフットボール選手として経験の浅い自分がXリーグでプレーできるとは思っていませんでした。しかし、いくつかのチームにお声がけをいただき、いずれもトライアウトに合格しました。私の実家は東京なので、関東のチームを選ぶのが普通かもしれませんが、パナソニックが最初に声をかけてくれたこと、荒木監督とお話をした時に、人を大切にしてくれるチームだと感じて、関西で心機一転やってみようという決心ができました。

— 荒木監督とはどんなお話をした

その本には成功する人の言葉が人の心に刺さるのは、その分苦労しているからだと記されていました。リーダーの言葉は、普段の行いから発散されるものでなければならぬことを学びました。

松下幸之助創業者の本はビジネス

のですか？

イグエ 私は母子家庭で育ったので、フットボール部に移ってからは練習が終わった後、24時間営業の牛井店でアルバイトをしていた話をしました。荒木監督はその話にとっても共感してくださいました。

— アルバイトはどのぐらいのしていたのですか？

イグエ 週に3〜4回、練習が終わってから深夜0時にシフトに入ってから9時まで。1限がある時には朝の5時まで働いていました。授業もサボらずに単位をしっかりとっていたので、そのことを評価していただいたのだと思います。

— なぜそんなに頑張れたのですか？

イグエ 野球部のチームメイトから「フットボールは絶対に辞めるなよ」と、送り出してもらったからです。そ

れに、フットボール部のチームメイトにも「野球部を辞めた弱い奴」と思われたくないという自分のプライドもありました。

— インパルスは仕事とフットボールの両立が前提になっているチームですが、イグエさんは学生の時から両立していたのですか？

イグエ 今は夜、しっかり寝ることができずから、学生時代よりも体の負担は確実に減っています。

— 会社とインパルス、イグエさんがいいなと思うことは？

イグエ どちらも人を大切に作る組織であることです。創業者の松下幸之助の言葉に「物を作る前に人を作る」というのがあります。会社においてもインパルスにおいてもそれが基本理念になっています。たとえばインパルスでは昨年チームの中で自分の考えやプ

パソン向けに書かれたものですが、チームづくりもよく似ています。身近に長年培われた組織づくりのヒントがあることも、インパルスが恵まれていることの一つだと思います。

— 今季の目標は？

イグエ 日本代表レベルの選手にな

ることを目指しています。昨年はローテーション出場で、まだ先発ではありませんでした。まずはしっかりと先発の地位を獲得したいと思っています。要所でチームを盛り上げられる、チームのために選手になることを目指しています。

プライベートなことをお互いに話し「オープン・ダイアログ」という取り組みを行っています。普段、人には話さないようなことを互いに共有することで、互いの理解を深め、心理的な安全性を醸成し、もっと頑張ろうと思える状況を作ろうとしています。これも、人を大切にするインパルスならではの取り組みだと思います。

— 昨年、副将を経験して学んだことは？

イグエ インパルスはいい意味で個性の強いメンバーが揃っているチームなので、自分ももっと勉強しなければと痛感しました。大学の時も副将をしていましたが、当時はノリで周囲を盛り上げてチームをまとめるという感じでした。しかし、インパルスの選手は皆、いかにレベルアップするかを一人ひとりが真剣に考えて、自分の信念持っている集団です。そういう選手たちに、底の浅い言葉は通用しません。毎回、皆の前で話す時には自分の姿勢や取り組みが試されている気持ちでした。

その時にリーダーシップについて学ぼうと思えば、松下幸之助創業者の本を読みました。その中の一節が心に残っています。

『成功する人は一言一句が相手の胸を刺すものだ。しかもそれが自然と出てくる。心の動くままに言葉に表れてくる』



Shoichi Kelly Igwe

いぐえ・けりーしょういち。1994年4月16日生まれ。ナイジェリアと日本のミックス。広島三育学院高校時代は軟式野球に取り組んだ。大学では本格的に硬式野球に取り組もうと、推薦入学者以外でも挑戦できる大学を探し、日本体育大学に入学。大学1年時の終わりにフットボール部に転向。3年時から先発となり、高い運動能力を生かしてDLとして活躍。2017年にインパルスに入団。昨季は副将としてチームを率いた。180センチ120キロ



IMPULSE

パナソニック インパルス 検索

panasonic.co.jp/ew/go-go-impulse/



Facebook
www.facebook.com/
Panasonic.Impulse

Twitter
@gogo_impulse